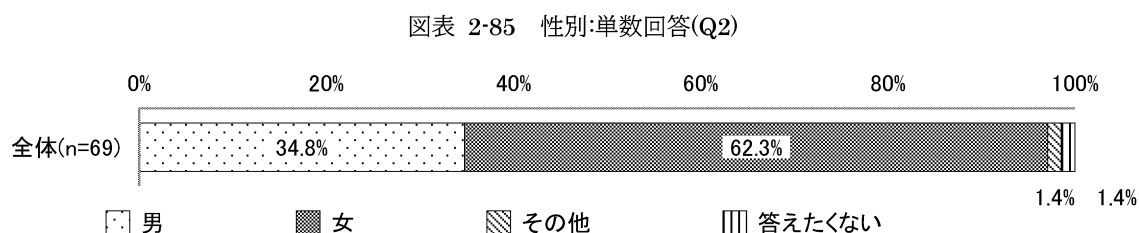


### 3 大学生アンケート結果

#### (1) 基本情報

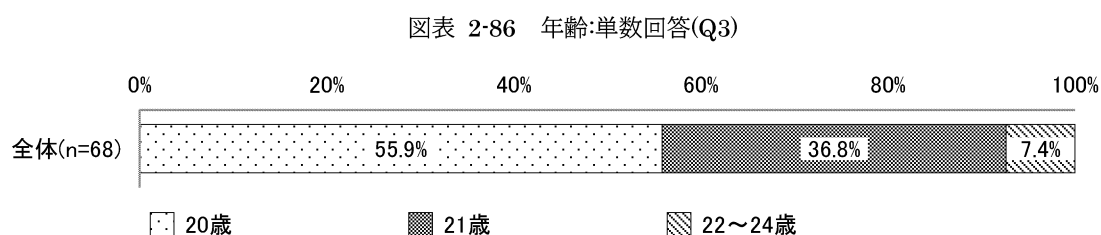
##### ① 性別

性別をみると、「女」が62.3%でもっとも割合が高く、次いで「男」が34.8%、「その他」「答えたくない」がそれぞれ1.4%となっている。



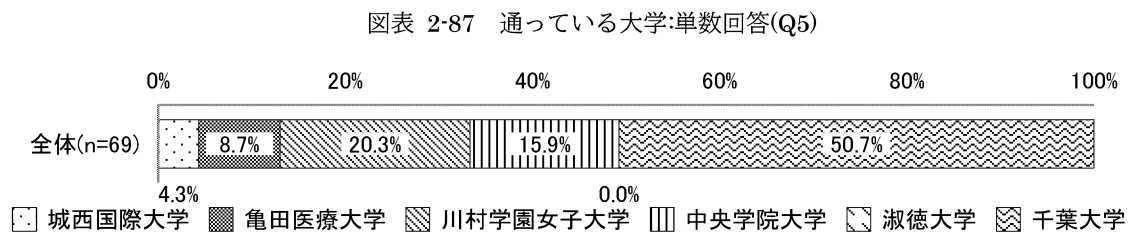
##### ② 年齢

年齢をみると、「20歳」が55.9%でもっとも割合が高く、次いで「21歳」が36.8%、「22～24歳」が7.4%となっている。



##### ③ 通っている大学

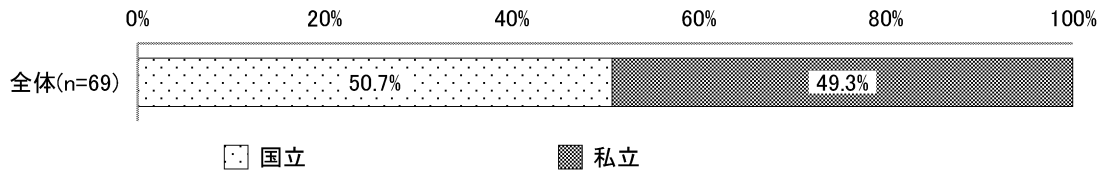
通っている大学をみると、「千葉大学」が50.7%でもっとも割合が高く、次いで「川村学園女子大学」が20.3%、「中央学院大学」が15.9%となっている。



#### ④大学種別

大学種別をみると、「国立」が50.7%、「私立」が49.3%となっている。

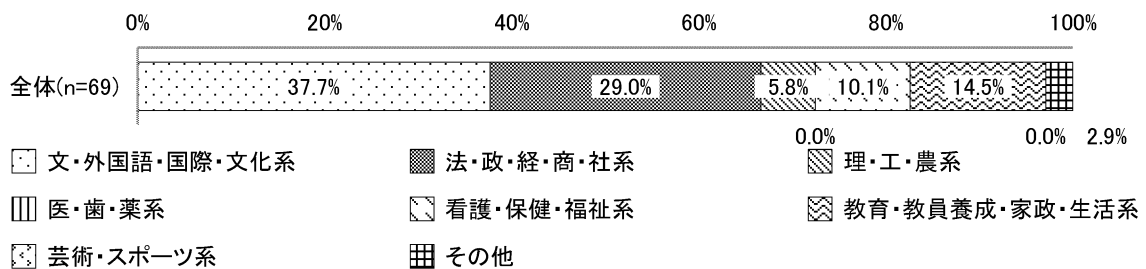
図表 2-88 大学種別:単数回答(Q6)



#### ⑤大学の学科（専攻）

大学の学科（専攻）をみると、「文・外国語・国際・文化系」が37.7%でもっとも割合が高く、次いで「法・政・経・商・社系」が29.0%、「教育・教員養成・家政・生活系」が14.5%となっている。

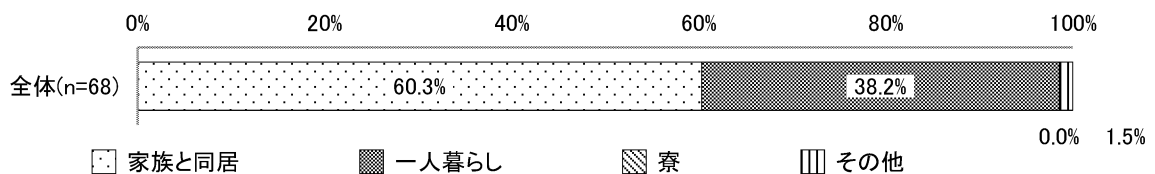
図表 2-89 大学の学科（専攻）:単数回答(Q7)



#### ⑥現在の居住形態

現在の居住形態をみると、「家族と同居」が60.3%でもっとも割合が高く、次いで「一人暮らし」が38.2%、「その他」が1.5%となっている。

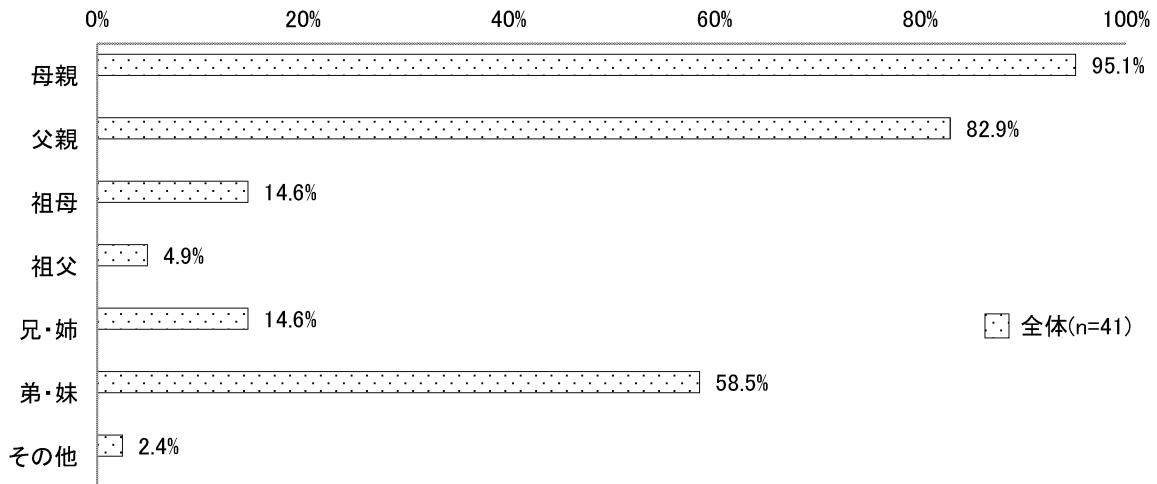
図表 2-90 現在の居住形態:単数回答(Q8)



⑦現在一緒に住んでいる家族

現在の居住形態で「家族と同居」と回答した人について、現在一緒に住んでいる家族をみると、「母親」が95.1%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が82.9%、「弟・妹」が58.5%となっている。

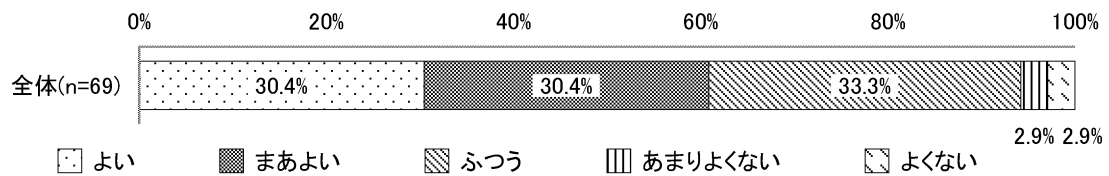
図表 2-91 現在一緒に住んでいる家族:複数回答(Q9)



⑧身体面の健康状態

身体面の健康状態をみると、「ふつう」が33.3%でもっとも割合が高く、次いで「よい」「まあよい」がそれぞれ30.4%、「あまりよくない」「よくない」がそれぞれ2.9%となっている。

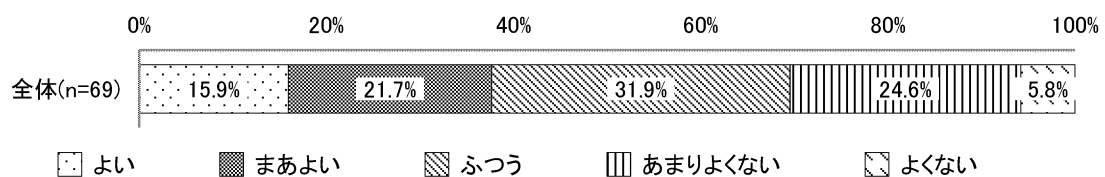
図表 2-92 身体面の健康状態:単数回答(Q10\_1)



⑨精神面の健康状態

精神面の健康状態をみると、「ふつう」が31.9%でもっとも割合が高く、次いで「あまりよくない」が24.6%、「まあよい」が21.7%となっている。

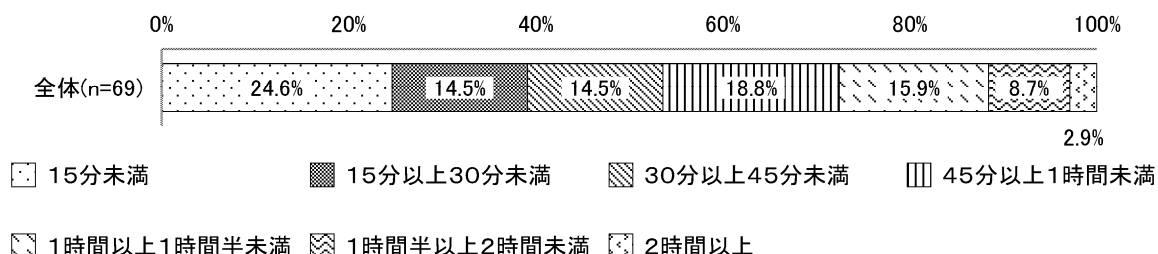
図表 2-93 精神面の健康状態:単数回答(Q10\_2)



### ⑩大学までの片道の通学時間

大学までの片道の通学時間をみると、「15分未満」が24.6%でもっとも割合が高く、次いで「45分以上1時間未満」が18.8%、「1時間以上1時間半未満」が15.9%となっている。

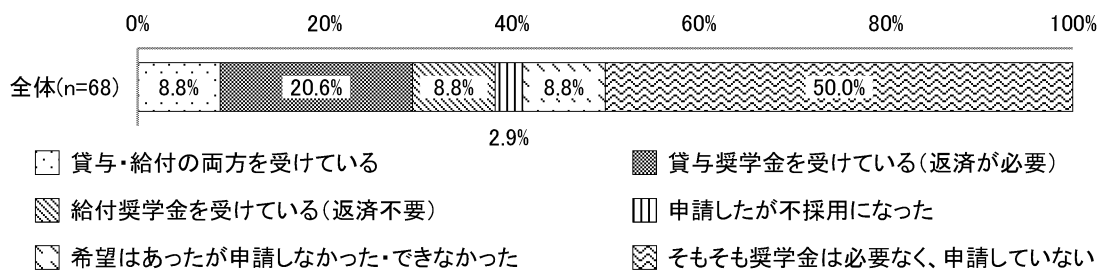
図表 2-94 大学までの片道の通学時間:単数回答(Q11)



### ⑪奨学金の受給状況

奨学金の受給状況をみると、「そもそも奨学金は必要なく、申請していない」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「貸与奨学金を受けている（返済が必要）」が20.6%、「給付奨学金を受けている（返済不要）」「希望はあったが申請しなかった・できなかった」「貸与・給付の両方を受けている」がそれぞれ8.8%となっている。

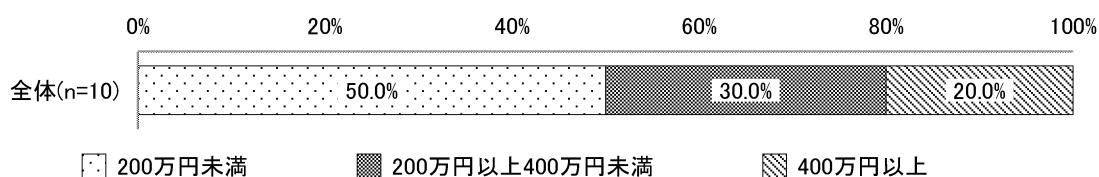
図表 2-95 奨学金の受給状況:単数回答(Q12\_1)



### ⑫奨学金の大学卒業時の予定貸与金額

奨学金の大学卒業時の予定貸与金額をみると、「200万円未満」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「200万円以上400万円未満」が30.0%、「400万円以上」が20.0%となっている。

図表 2-96 奨学金の大学卒業時の予定貸与金額:単数回答(Q12\_2)

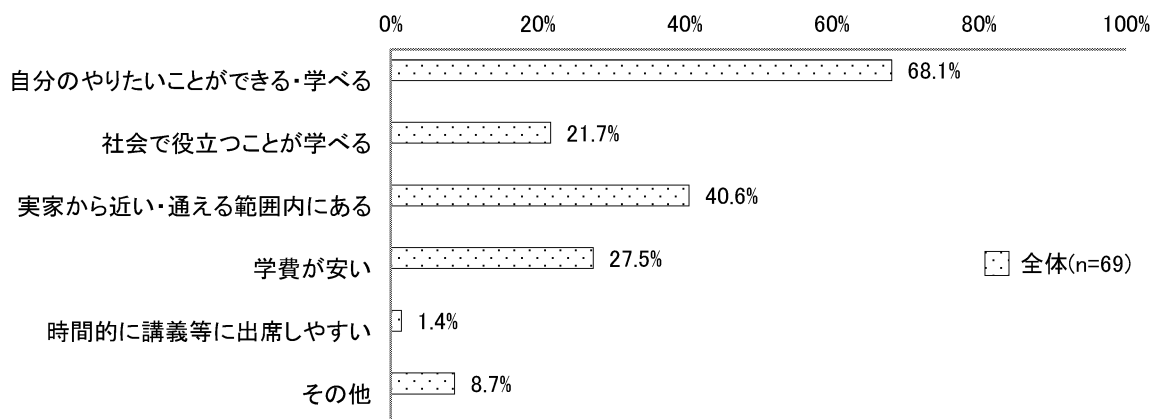


## (2) 普段の生活について

### ① 現在通う大学を選択した理由

現在通う大学を選択した理由をみると、「自分のやりたいことができる・学べる」が68.1%でもっとも割合が高く、次いで「実家から近い・通える範囲内にある」が40.6%、「学費が安い」が27.5%となっている。

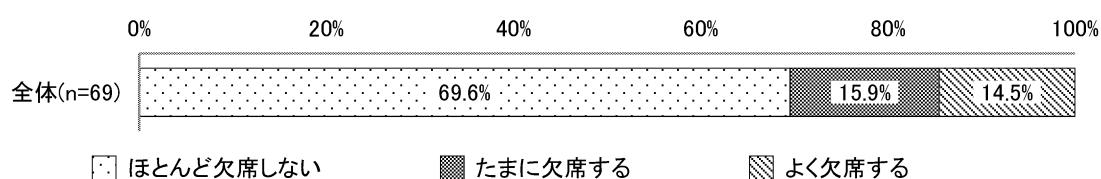
図表 2-97 現在通う大学を選択した理由:複数回答(Q13)



### ② 大学の授業（履修している講義）への出席状況

大学の授業（履修している講義）への出席状況をみると、「ほとんど欠席しない」が69.6%でもっとも割合が高く、次いで「たまに欠席する」が15.9%、「よく欠席する」が14.5%となっている。

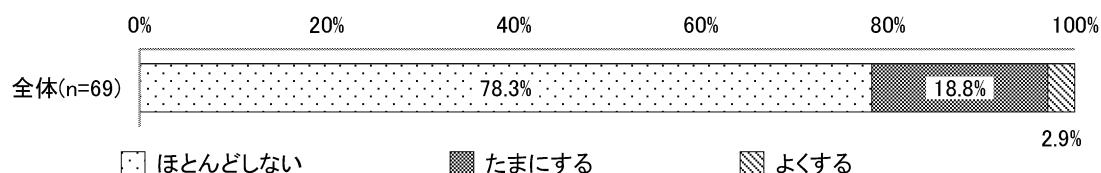
図表 2-98 大学の授業（履修している講義）への出席状況:単数回答(Q14\_1)



### ③大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況

大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況を見ると、「ほとんどしない」が78.3%でもっとも割合が高く、次いで「たまにする」が18.8%、「よくする」が2.9%となっている。

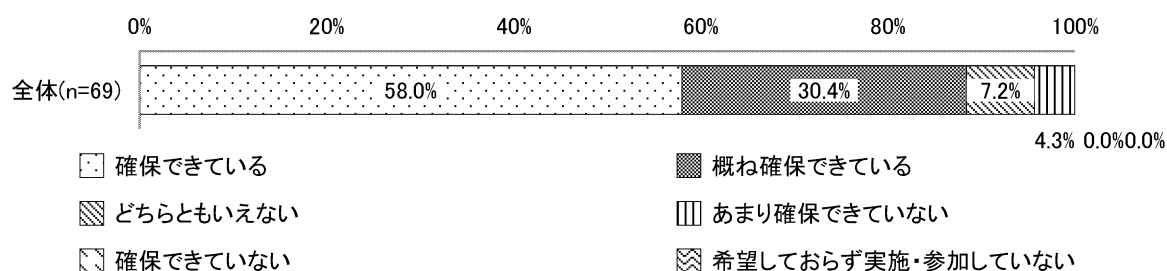
図表 2-99 大学の授業（履修している講義）への遅刻や早退の状況:単数回答(Q14\_2)



### ④時間の確保状況／大学の授業の受講（ゼミ含む）

大学の授業の受講（ゼミ含む）について、時間を確保できているかをみると、「確保できている」が58.0%でもっとも割合が高く、次いで「概ね確保できている」が30.4%、「どちらともいえない」が7.2%となっている。

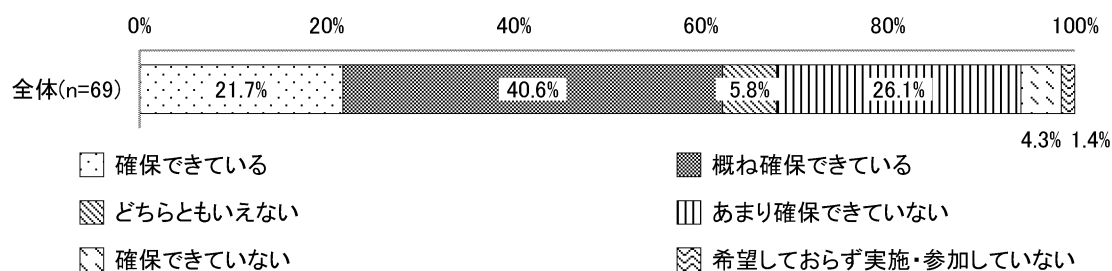
図表 2-100 時間の確保状況／大学の授業の受講（ゼミ含む）:単数回答(Q15\_1)



### ⑤時間の確保状況／大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間

大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間について、確保できているかをみると、「概ね確保できている」が40.6%でもっとも割合が高く、次いで「あまり確保できていない」が26.1%、「確保できている」が21.7%となっている。

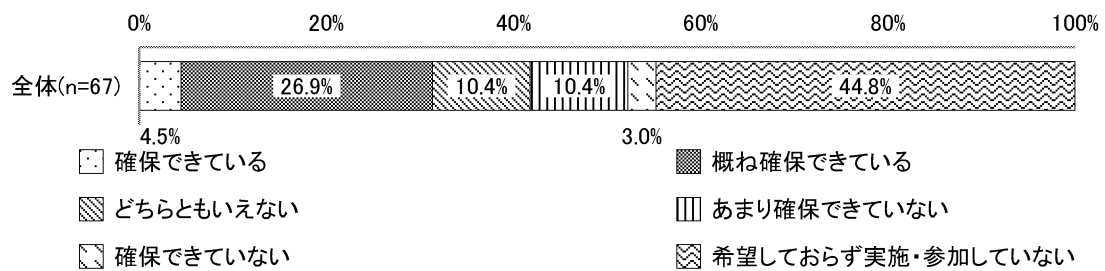
図表 2-101 時間の確保状況／大学の授業の予習復習、課題に取り組む時間:単数回答(Q15\_2)



### ⑥時間の確保状況／部活・サークル

部活・サークルについて、時間を確保できているかをみると、「希望しておらず実施・参加していない」が44.8%でもっとも割合が高く、次いで「概ね確保できている」が26.9%、「どちらともいえない」が10.4%となっている。

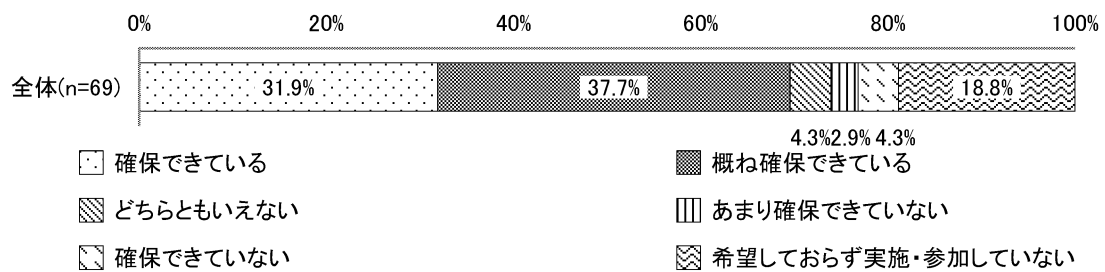
図表 2-102 時間の確保状況／部活・サークル:単数回答(Q15\_3)



### ⑦時間の確保状況／アルバイト・仕事

アルバイト・仕事について、時間を確保できているかをみると、「概ね確保できている」が37.7%でもっとも割合が高く、次いで「確保できている」が31.9%、「希望しておらず実施・参加していない」が18.8%となっている。

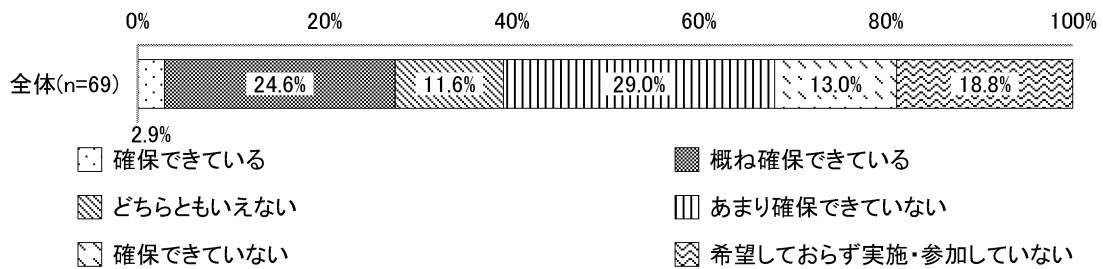
図表 2-103 時間の確保状況／アルバイト・仕事:単数回答(Q15\_4)



⑧時間の確保状況／就職活動（説明会、インターンへの応募・参加も含む）

就職活動（説明会、インターンへの応募・参加も含む）について、時間を確保できているかをみると、「あまり確保できていない」が29.0%でもっとも割合が高く、次いで「概ね確保できている」が24.6%、「希望しておらず実施・参加していない」が18.8%となっている。

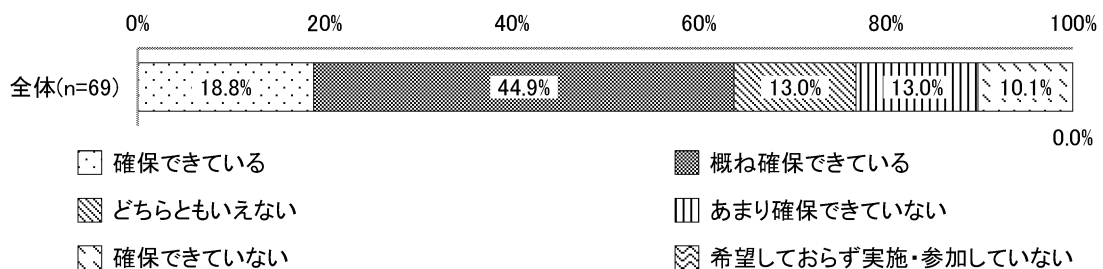
図表 2-104 時間の確保状況／就職活動（説明会、インターンへの応募・参加も含む）：単数回答(Q15\_5)



⑨時間の確保状況／趣味・娯楽・交友

趣味・娯楽・交友について、時間を確保できているかをみると、「概ね確保できている」が44.9%でもっとも割合が高く、次いで「確保できている」が18.8%、「どちらともいえない」「あまり確保できていない」がそれぞれ13.0%となっている。

図表 2-105 時間の確保状況／趣味・娯楽・交友：単数回答(Q15\_6)

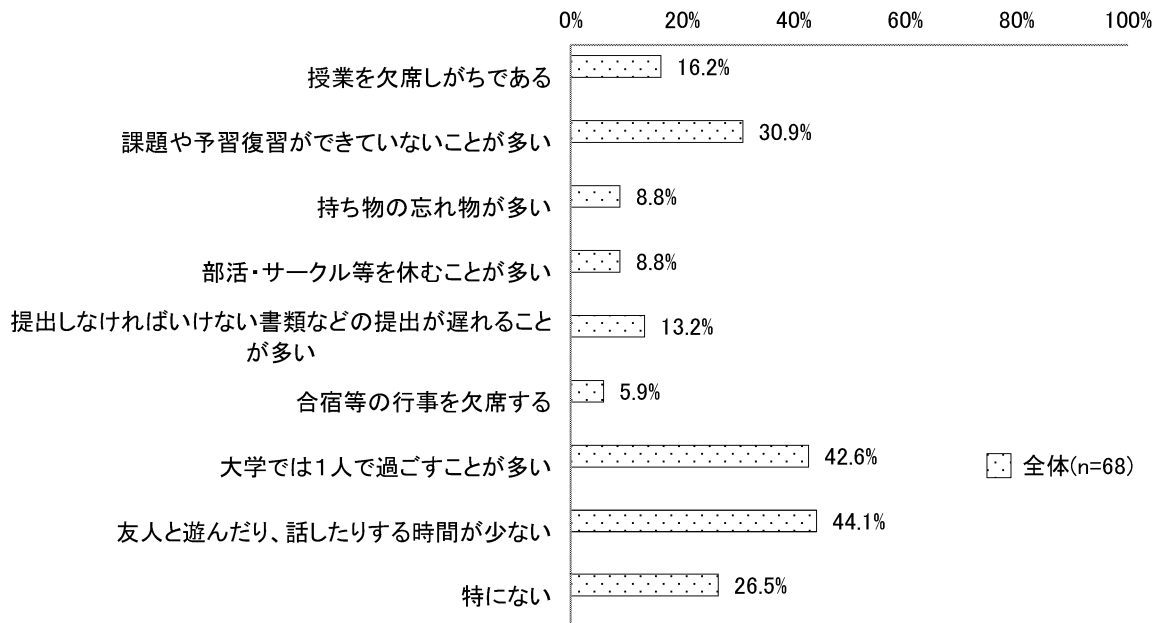




⑩ふだんの大学生活等においてあてはまるもの

ふだんの大学生活等においてあてはまるものをみると、「友人と遊んだり、話したりする時間が少ない」が44.1%でもっとも割合が高く、次いで「大学では1人で過ごすことが多い」が42.6%、「課題や予習復習ができていないことが多い」が30.9%となっている。

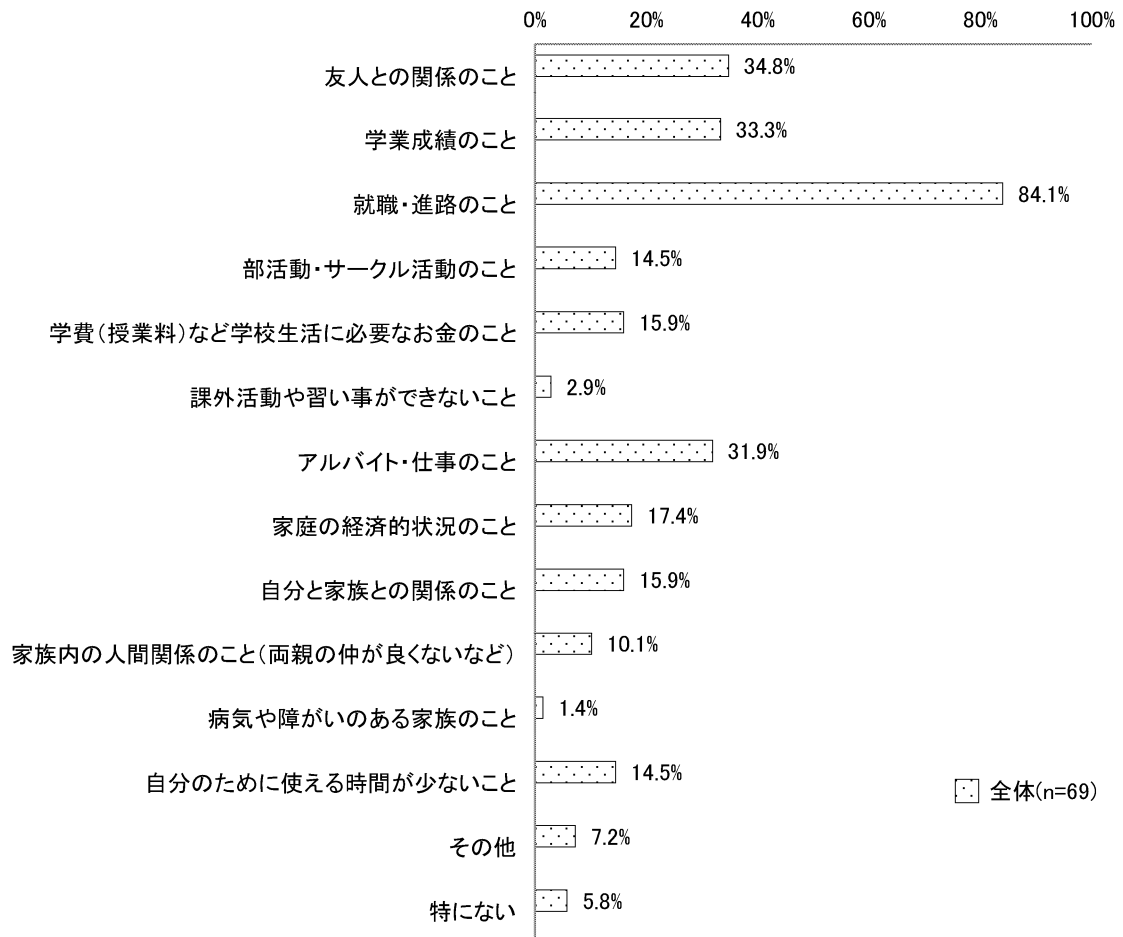
図表 2-106 ふだんの大学生活等においてあてはまるもの:複数回答(Q16)



①現在の悩みや困りごと

現在の悩みや困りごとをみると、「就職・進路のこと」が84.1%でもっとも割合が高く、次いで「友人との関係のこと」が34.8%、「学業成績のこと」が33.3%となっている。

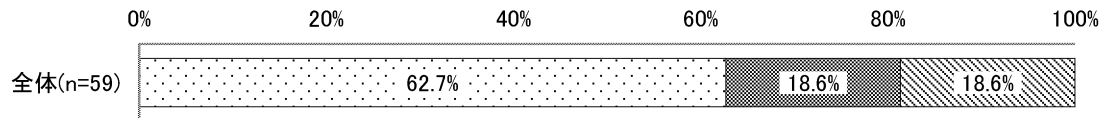
図表 2-107 現在の悩みや困りごと:複数回答(Q17)



## ⑫悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

現在の悩みや困りごとについて「特にない」以外と回答した人に関して、悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無をみると、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が62.7%でもっとも割合が高く、次いで「相談相手や話を聞いてくれる人がいない」「相談や話ほしたくない」がそれぞれ18.6%となっている。

図表 2-108 悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無:単数回答(Q18)



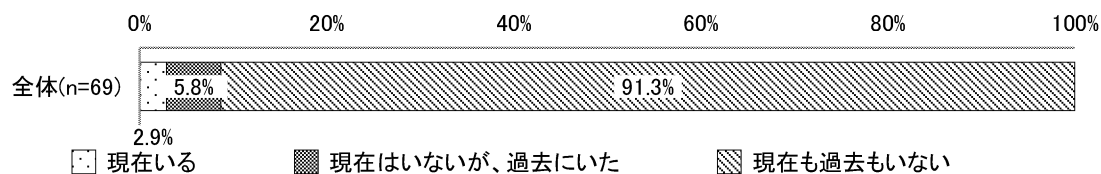
□ 相談相手や話を聞いてくれる人がいる ■ 相談相手や話を聞いてくれる人がいない ▨ 相談や話ほしたくない

### (3) 家庭や家族のことについて

#### ① 世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無をみると、「現在も過去もない」が91.3%でもっとも割合が高く、次いで「現在はいるが、過去にいた」が5.8%、「現在いる」が2.9%となっている。

図表 2-109 世話をしている家族の有無:単数回答(Q19)

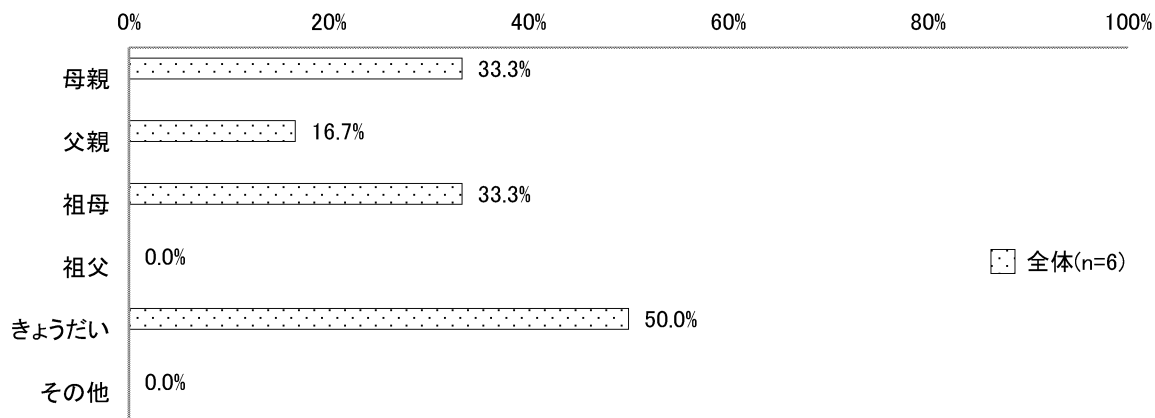


※以降、Q20～34については、本設問で「現在いる」または「現在はいるが、過去にいた」と回答した者を対象として集計している。

#### ② 世話を必要としている家族

世話を必要としている家族をみると、「きょうだい」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「母親」「祖母」がそれぞれ33.3%、「父親」が16.7%となっている。

図表 2-110 世話を必要としている家族:複数回答(Q20\_1)

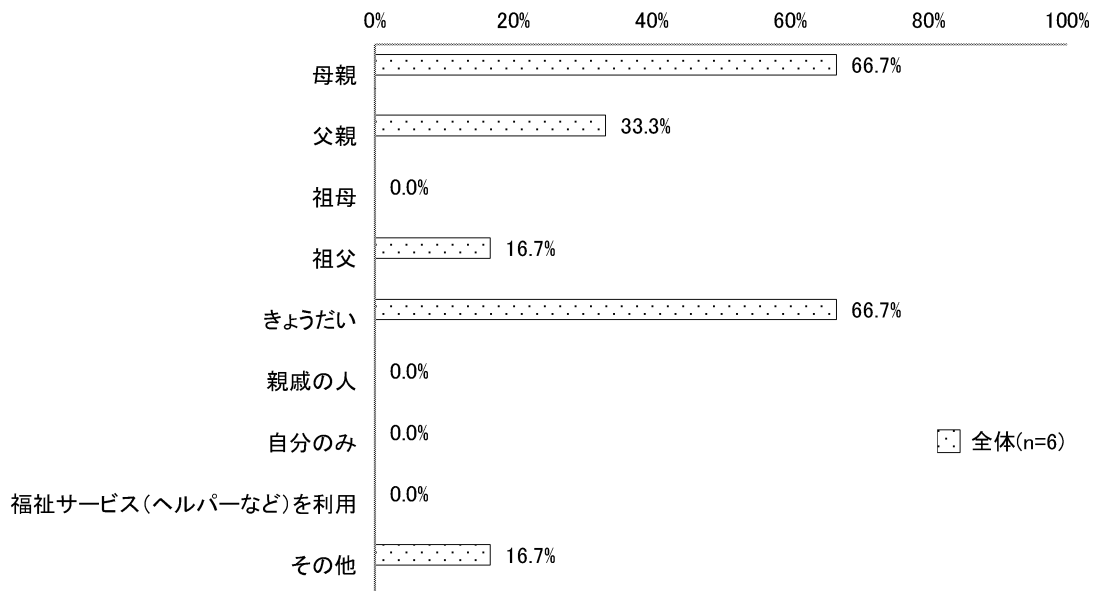


※以降、Q20\_2「世話を必要としている（していた）方の状況」については、回答数が1～2件と少数であることから、報告書の掲載は省略している。

### ③一緒に世話をを行っている人

一緒に世話をを行っている人を見ると、「母親」「きょうだい」がそれぞれ66.7%でもっとも割合が高く、次いで「父親」が33.3%、「祖父」「その他」がそれぞれ16.7%となっている。

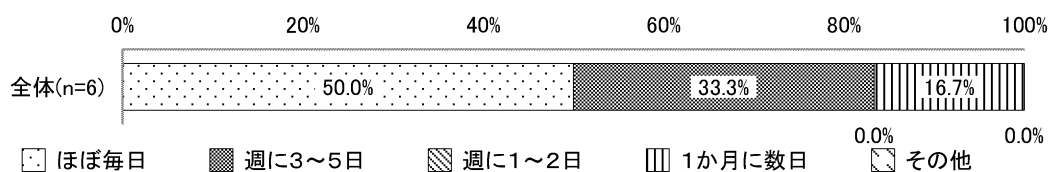
図表 2-111 一緒に世話をを行っている人:複数回答(Q20\_3)



### ④世話をしている（していた）頻度

世話をしている（していた）頻度を見ると、「ほぼ毎日」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「週に3～5日」が33.3%、「1か月に数日」が16.7%となっている。

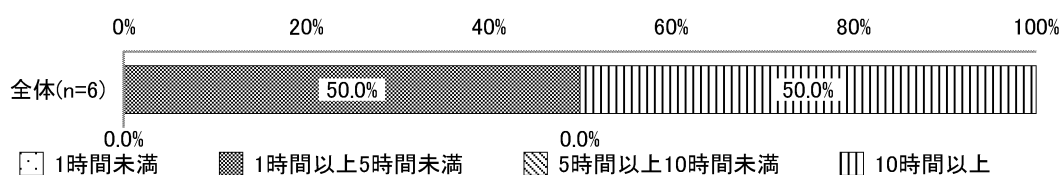
図表 2-112 世話をしている（していた）頻度:単数回答(Q20\_4)



### ⑤平日1日あたりに世話に費やす時間

平日1日あたりに世話に費やす時間を見ると、「1時間以上5時間未満」「10時間以上」がそれぞれ50.0%となっている。

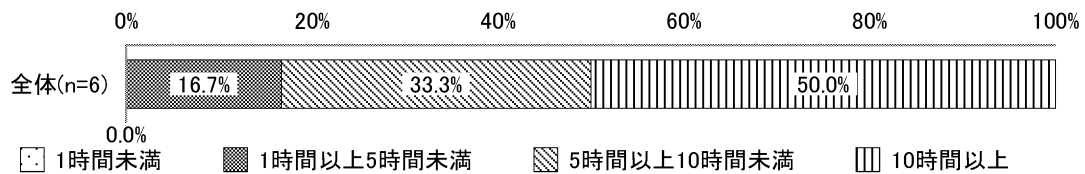
図表 2-113 平日1日あたりに世話に費やす時間:単数回答(Q20\_5\_1)



### ⑥休日1日あたりに世話に費やす時間

休日1日あたりに世話に費やす時間をみると、「10時間以上」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「5時間以上10時間未満」が33.3%、「1時間以上5時間未満」が16.7%となっている。

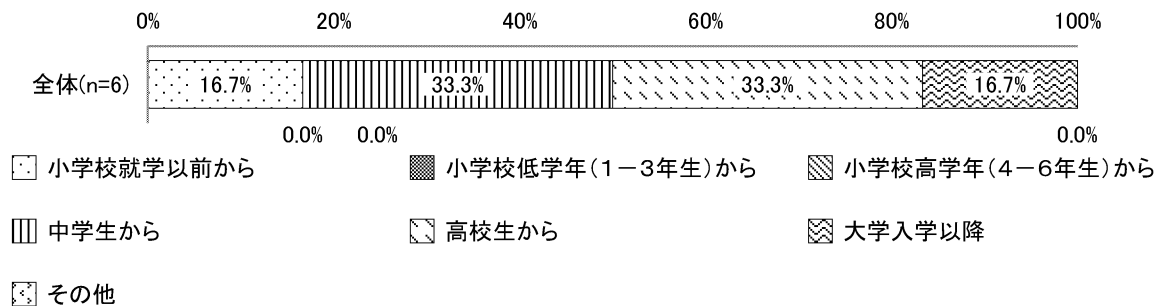
図表 2-114 休日1日あたりに世話に費やす時間:単数回答(Q20\_5\_2)



### ⑦世話を始めた時期

世話を始めた時期をみると、「中学生から」「高校生から」がそれぞれ33.3%、「小学校就学以前から」「大学入学以降」が16.7%となっている。

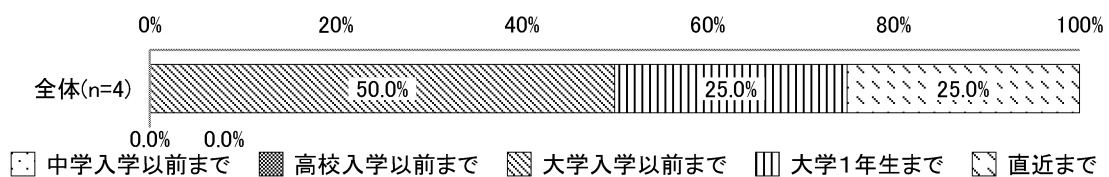
図表 2-115 世話を始めた時期:単数回答(Q20\_6)



### ⑧世話をしていた時期

世話をしている人が「現在はいないが、過去にいた」と回答した人について、世話をしていた時期をみると、「大学入学以前まで」が50.0%、「大学1年生まで」「直近まで」がそれぞれ25.0%となっている。

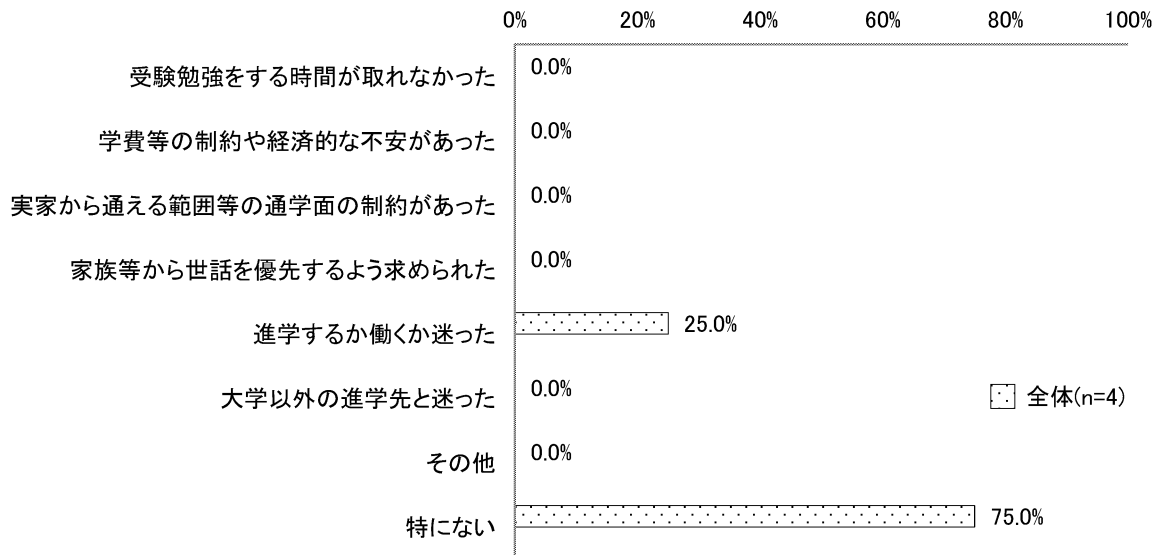
図表 2-116 世話をしていた時期:単数回答(Q20\_7)



⑨世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響

世話を始めた時期が「大学入学以降」以外と回答した人について、世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響をみると、「特にない」が75.0%、「進学するか働くか迷った」が25.0%となっている。

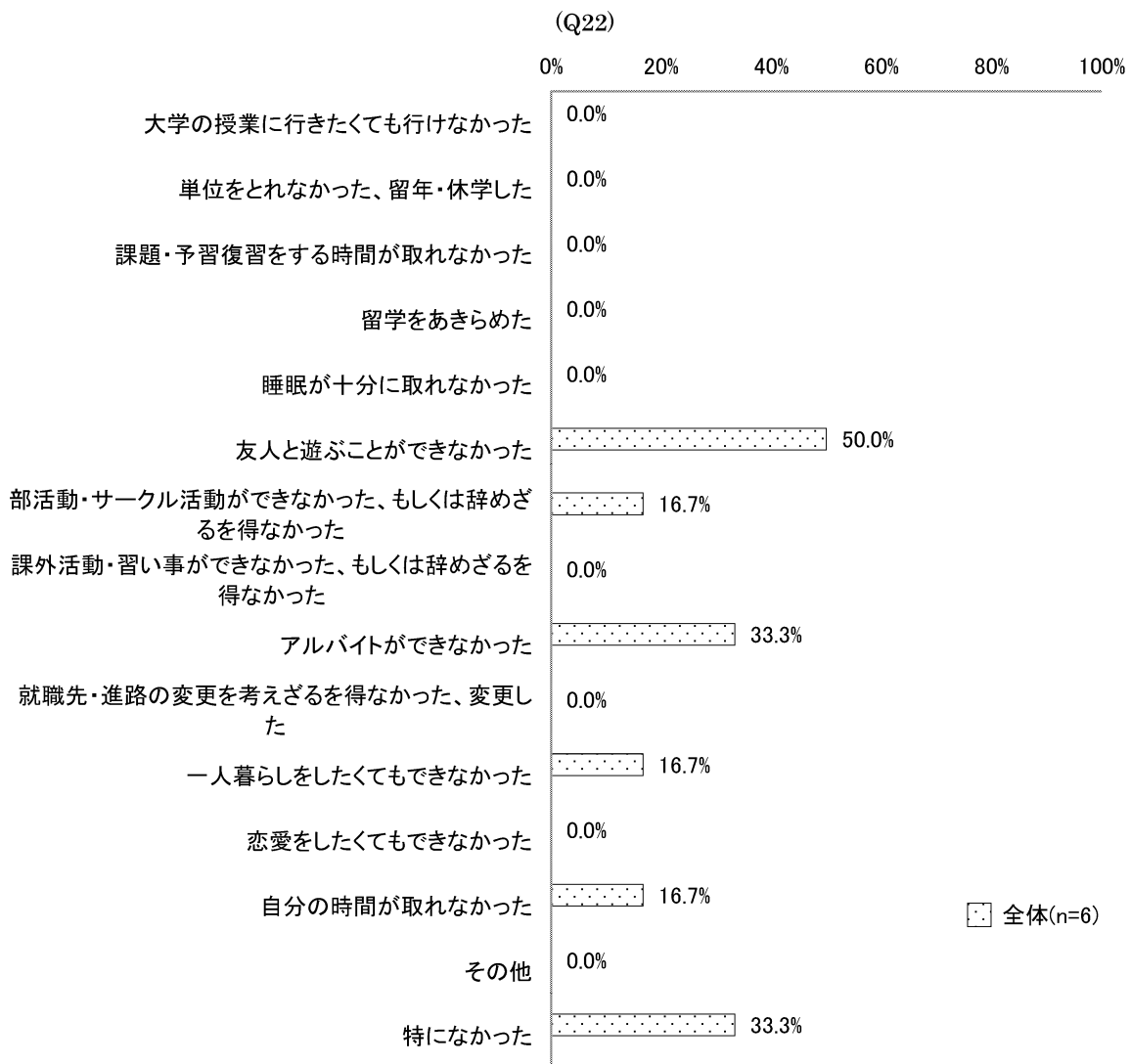
図表 2-117 世話をしていることで、大学進学の際に苦労したこと・影響:複数回答(Q21)



⑩世話をしている（していた）ことで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと

世話をしている（していた）ことで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことをみると、「友人と遊ぶことができなかった」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「アルバイトができなかった」「特になかった」がそれぞれ33.3%、「部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった」「一人暮らしをしたくてもできなかった」「自分の時間が取れなかった」がそれぞれ16.7%となっている。

図表 2-118 世話をしている（していた）ことで、やりたかったができなかったこと、あきらめたこと:複数回答

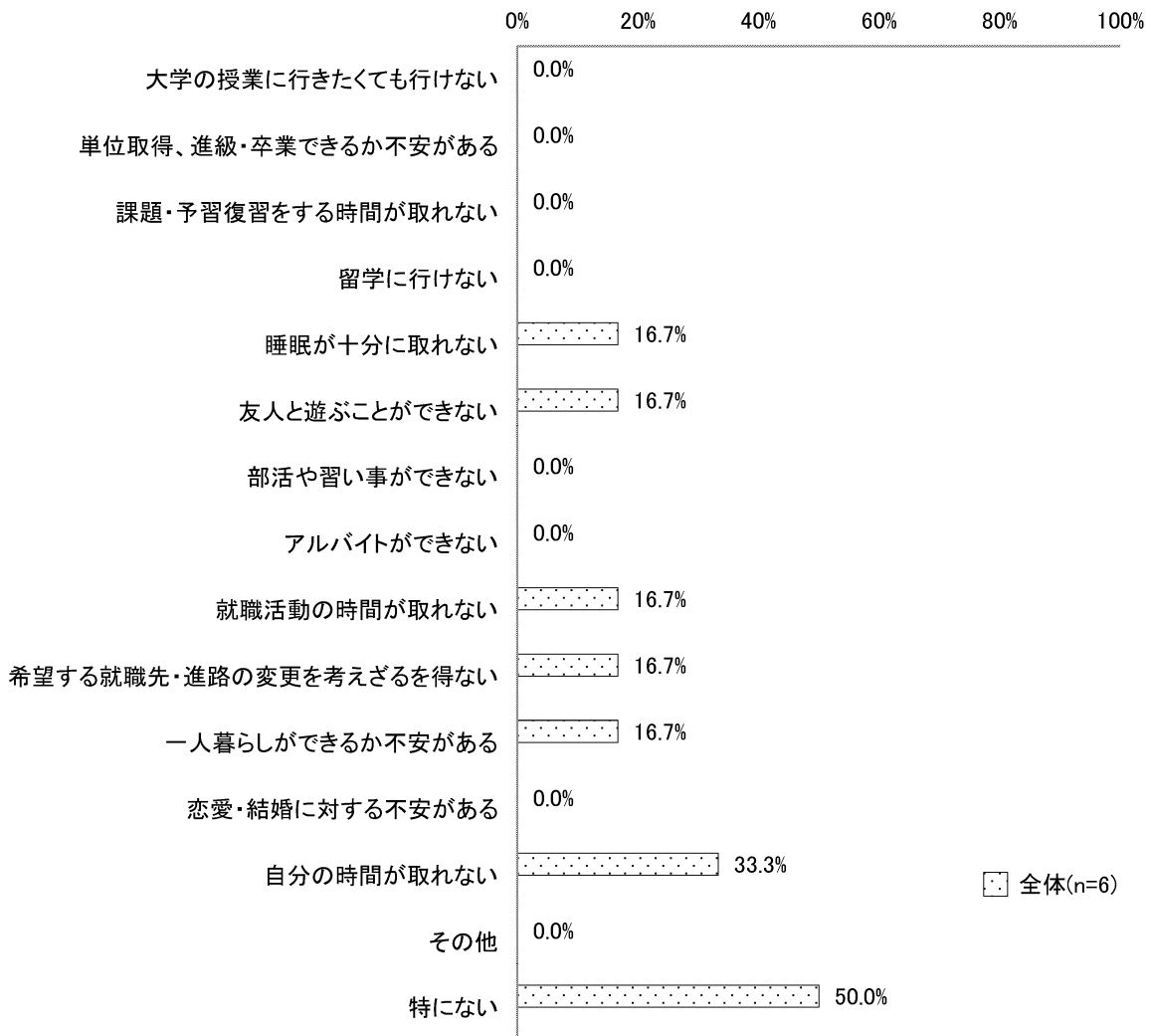




⑪世話をしている（していた）ことで、今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと

世話をしている（していた）ことで、今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなことをみると、「特にない」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「自分の時間が取れない」が33.3%、「睡眠が十分に取れない」「友人と遊ぶことができない」「就職活動の時間が取れない」「希望する就職先・進路の変更を考えざるを得ない」「一人暮らしができるか不安がある」がそれぞれ16.7%となっている。

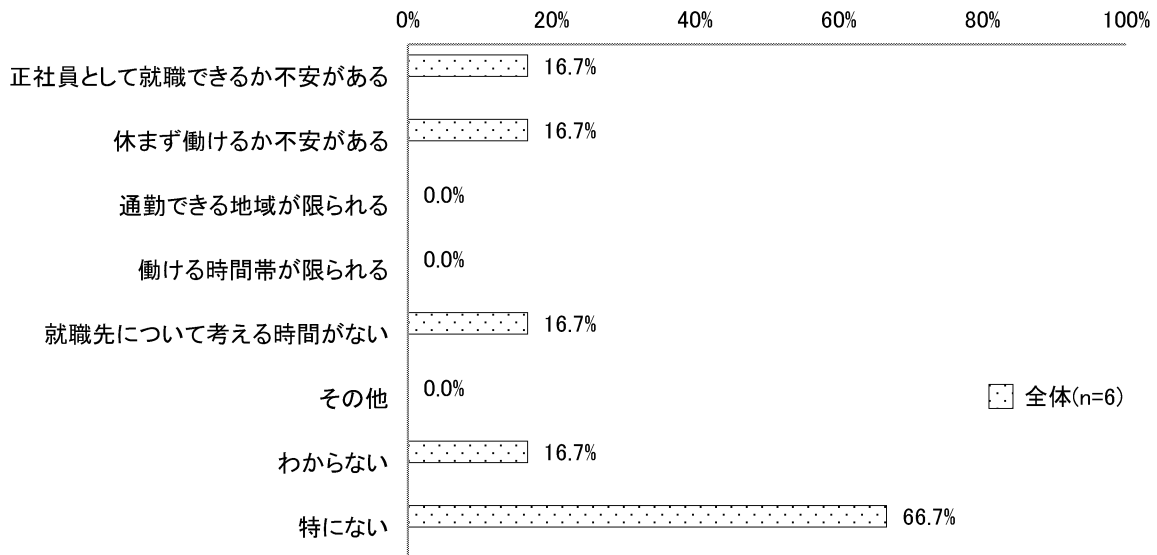
図表 2-119 世話をしている（していた）ことで、今後不安なこと、やりたいけどできなさそうなこと:複数回答 (Q23)



### ⑫世話をしていることで生ずる就職に関する不安

世話をしていることで生ずる就職に関する不安をみると、「特にない」が66.7%、「休まず働けるか不安がある」「就職先について考える時間がない」「わからない」「正社員として就職できるか不安がある」がそれぞれ16.7%となっている。

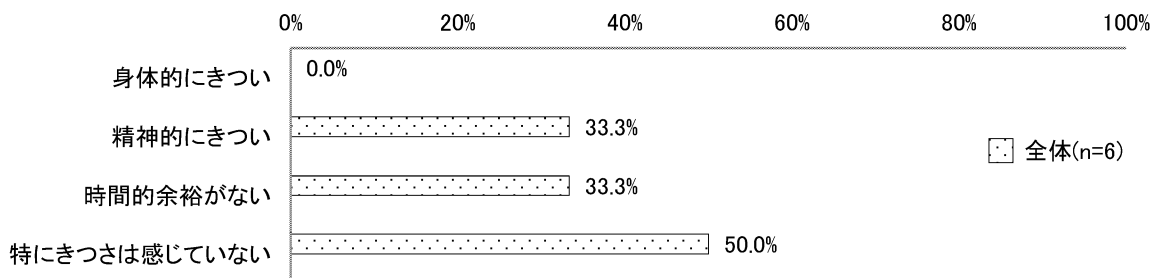
図表 2-120 世話をしていることで生ずる就職に関する不安:複数回答(Q24)



### ⑬世話をすることで感じるきつさ

世話をすることで感じるきつさをみると、「特にきつさは感じていない」が50.0%、「精神的にきつい」「時間的余裕がない」がそれぞれ33.3%となっている。

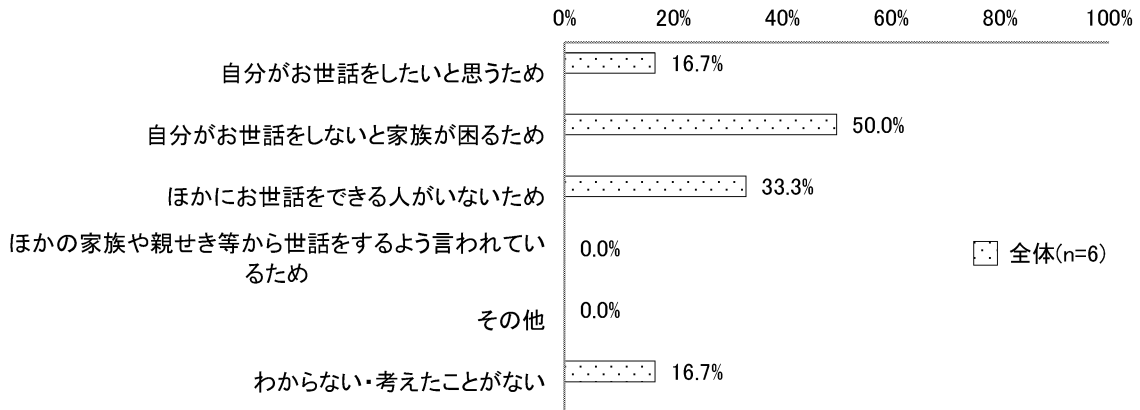
図表 2-121 世話をすることで感じるきつさ:複数回答(Q25)



#### ⑭自身が世話をする理由

自身が世話をする理由をみると、「自分がお世話をしないと家族が困るため」が50.0%でもっとも割合が高く、次いで「ほかにお世話をできる人がいないため」が33.3%、「自分がお世話をしたいと思うため」「わからない・考えたことがない」がそれぞれ16.7%となっている。

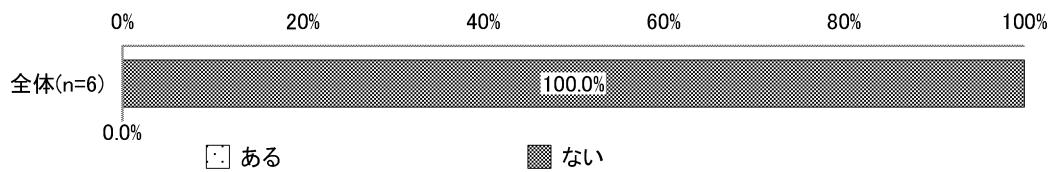
図表 2-122 自身が世話をする理由:複数回答(Q26)



#### ⑮世話について相談した経験の有無

世話について相談した経験の有無をみると、「ない」が100%となっている。

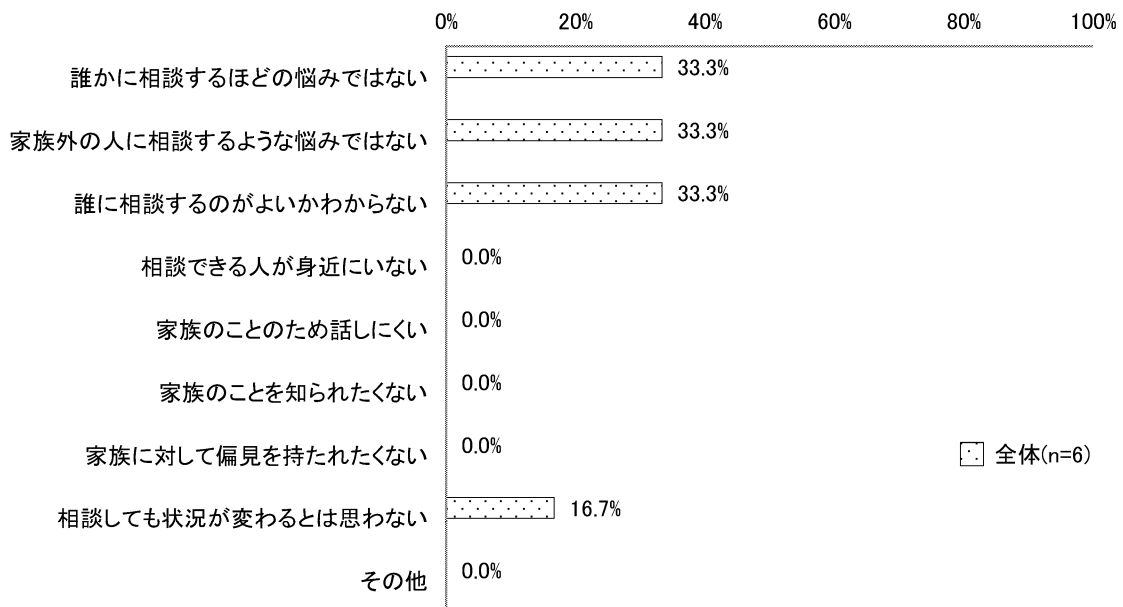
図表 2-123 世話について相談した経験の有無:単数回答(Q27)



⑩悩みを相談していない理由

世話について相談した経験が「ない」と回答した人について、悩みを相談していない理由をみると、「家族外の人に相談するような悩みではない」「誰に相談するのがよいかわからない」「誰かに相談するほどの悩みではない」がそれぞれ 33.3%、「相談しても状況が変わるとは思わない」が 16.7%となっている。

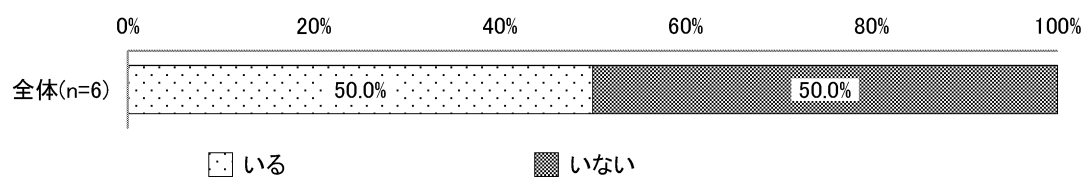
図表 2-124 悩みを相談していない理由:複数回答(Q29)



⑪世話について話を聞いてくれる人の有無

世話について相談した経験が「ない」と回答した人について、世話について話を聞いてくれる人の有無をみると、「いる」「いない」がそれぞれ 50.0%となっている。

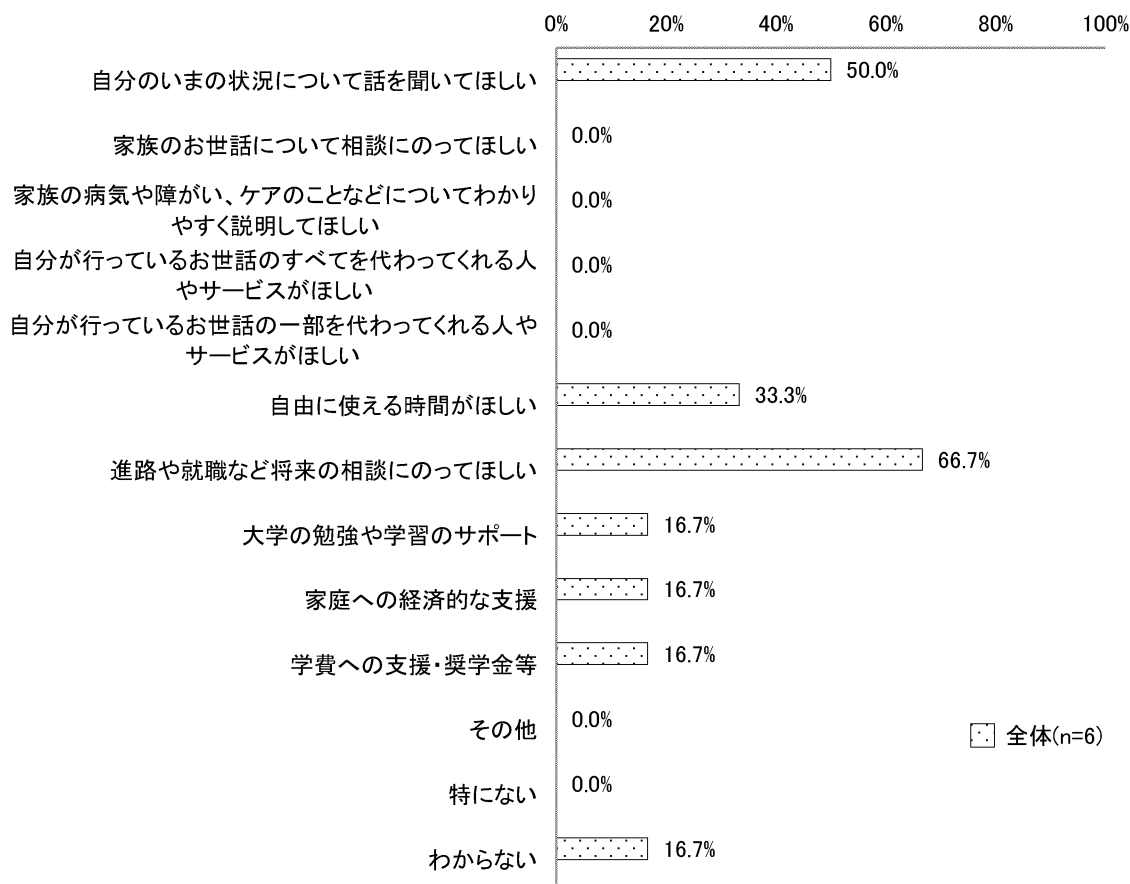
図表 2-125 【Q27で「ない」と回答した方】世話について話を聞いてくれる人の有無:単数回答(Q30)



### ⑱大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援

大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援をみると、「進路や就職など将来の相談にのってほしい」が66.7%でもっとも割合が高く、次いで「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が50.0%、「自由に使える時間がほしい」が33.3%となっている。

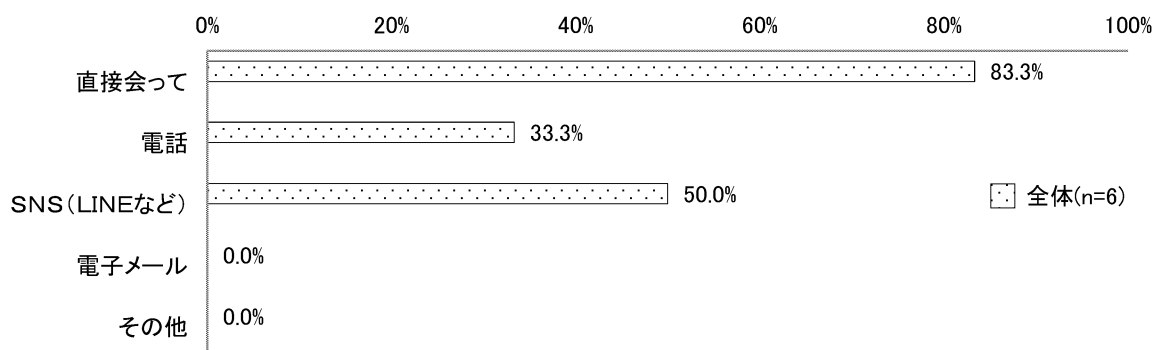
図表 2-126 大学や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援:複数回答(Q31)



### ⑲希望する相談方法

希望する相談方法をみると、「直接会って」が83.3%でもっとも割合が高く、次いで「SNS (LINE など)」が50.0%、「電話」が33.3%となっている。

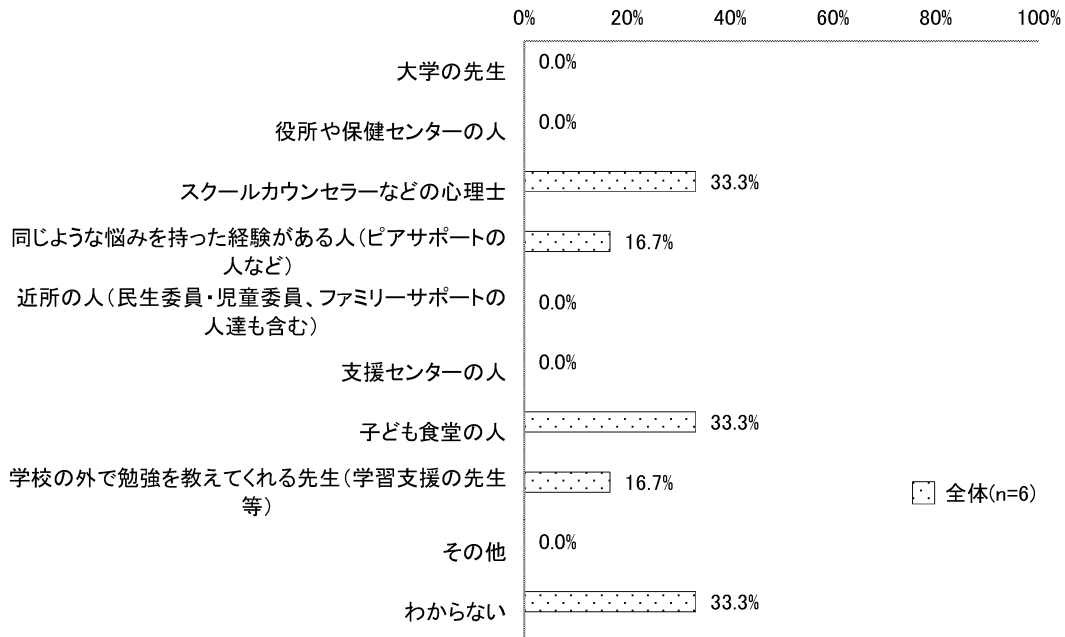
図表 2-127 希望する相談方法:複数回答(Q32)



⑩相談しやすい相手（家族や親戚、友人、交際相手以外）

相談しやすい相手（家族や親戚、友人、交際相手以外）をみると、「スクールカウンセラーなどの心理士」「子ども食堂の人」「わからない」がそれぞれ 33.3%、「同じような悩みを持った経験がある人（ピアサポートの人など）」「学校の外で勉強をしてくれる先生（学習支援の先生等）」がそれぞれ 16.7%となっている。

図表 2-128 相談しやすい相手（家族や親戚、友人、交際相手以外）：複数回答(Q33)



⑪家族のお世話をしている若者のために、必要だと思うことや、大学や周囲の人にしてもらいたいこと（自由回答）(Q34)

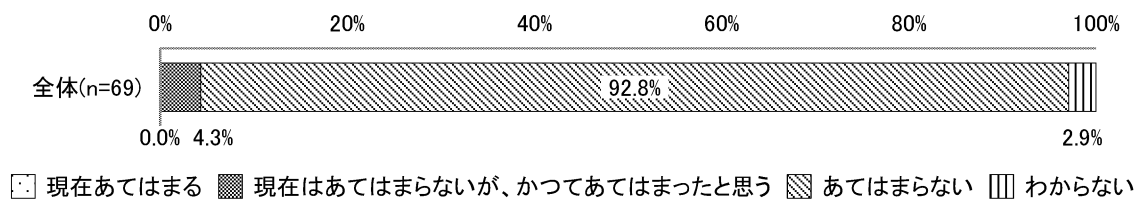
- ・話を聞くこと
- ・家の手伝いをする
- ・ホームヘルパーの増加 / 等

#### (4) ヤングケアラーについて

##### ① 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」にあてはまると思うか

「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」にあてはまると思うかをみると、「あてはまらない」が92.8%でもっとも割合が高く、次いで「現在はあてはまらないが、かつてあてはまったと思う」が4.3%、「わからない」が2.9%となっている。

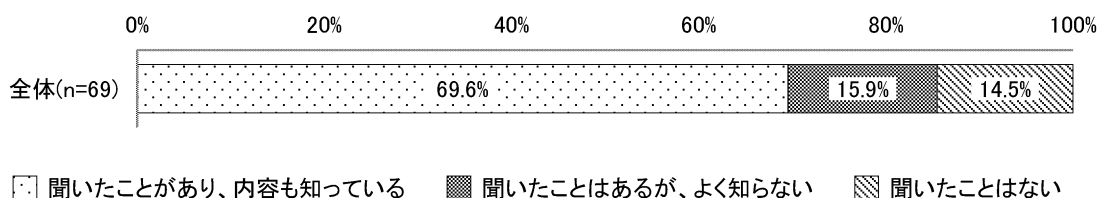
図表 2-129 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」にあてはまると思うか:単数回答(Q35)



##### ② 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉の認知度

「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉の認知度をみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」が69.6%でもっとも割合が高く、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が15.9%、「聞いたことはない」が14.5%となっている。

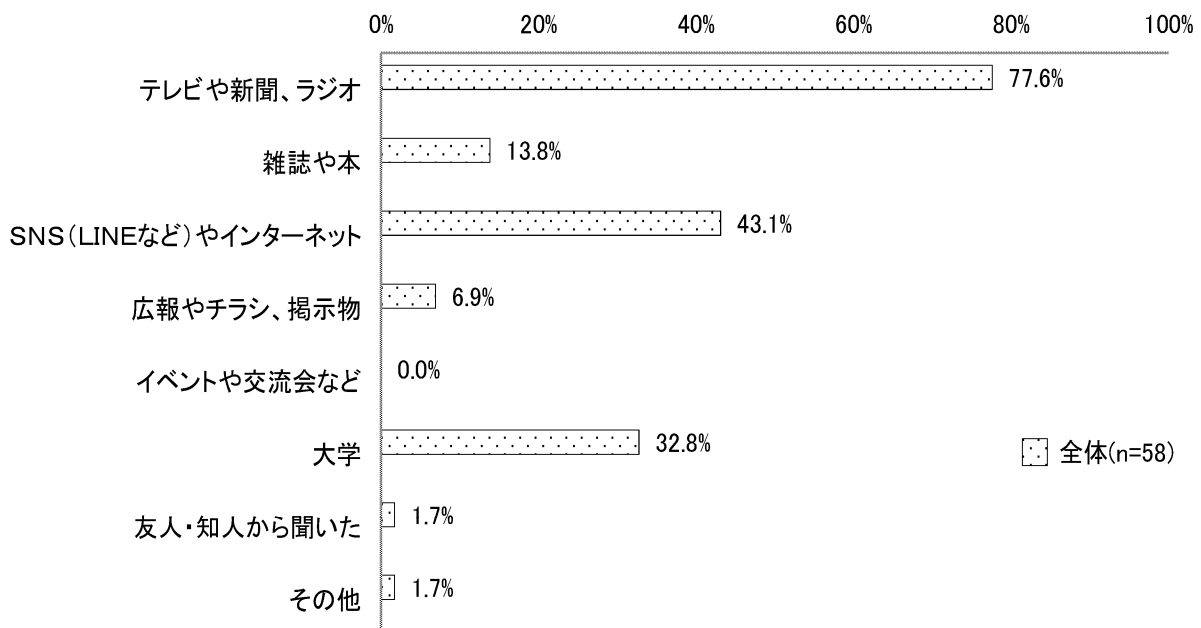
図表 2-130 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉の認知度:単数回答(Q36)



③「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉を知ったきっかけ

「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉を知ったきっかけを「聞いたことがあり、内容も知っている」または「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人について、言葉を知ったきっかけをみると、「テレビや新聞、ラジオ」が77.6%でもっとも割合が高く、次いで「SNS(LINE など)やインターネット」が43.1%、「大学」が32.8%となっている。

図表 2-131 「ヤングケアラー（または若者ケアラー）」という言葉を知ったきっかけ:複数回答(Q37)



④ヤングケアラー（または若者ケアラー）の支援を広げていくために必要だと思うことや、要望など（自由回答）

<相談しやすい環境づくり>

- ・若者は学業や仕事でそれだけで忙しいので、そういった人を理解し、学校や会社が配慮する体制をとるべきだと思う。
- ・相談しやすい環境を整備する（例：気軽に立ち寄って話ができる場所など）
- ・家族のケアのためにケアをしていない人と比較して自由な時間を割くことができないことに対して配慮したり、周囲が支援しやすくしたり、支援を受けやすい環境をつくる
- ・行政が学校などに働きかけて、ヤングケアラーを発見して負担をなくしてあげる。
- ・ヤングケアラーになりやすい家庭をあらかじめ把握し、家庭訪問に行くなどして状況を確認し、ヤングケアラーを行っている人の支援を行う。
- ・相談窓口を分かりやすくするべき
- ・地域に相談できる場所を作り、相談できる場所があるということを知る機会が作れるよう手紙などを各家庭に配布する。 /等



#### <支援体制の充実>

- ・障がい者がヘルパーを利用するための補助金を支給する。
- ・金銭的支援
- ・奨学金の支払い義務撤廃、ヤングケアラーの経済的支援、ヤングケアラーの定期的な相談や訪問が必要であると思う。
- ・子育ての援助(金銭面や精神面)、子どもたちにさせない為の取り組み
- ・所得とか関係なしに支援をする
- ・親の都合でヤングケアラーが生まれていると思うので、親に支援をする(介護サービス、仕事の早上がり等)ことでヤングケアラーが減るはず。人の手を借りることを恥ずかしいと思わない世の中にする。
- ・ヤングケアラーが学業や友人との交際のための時間を取れるようにするための、公的な支援。(介護サービスや経済支援等) また、相談先の充実や、学校での把握、サポート。 / 等

#### <認知度向上>

- ・支援に必要な手続きを可能な限り簡素化すること、またそういった支援の認知度を上げていくことは必要だと思う。
- ・ヤングケアラーの存在や実態を知らない人、正しく理解していない人は多いと考えるため世間に周知させることが必要であると考え。SNS や公共施設での広告によってまずはヤングケアラーの存在に触れる機会を設けるべきであると考え。
- ・ヤングケアラーへの理解を深めること
- ・ヤングケアラーに関する授業をしたり、テレビでもっとヤングケアラーについて取り上げるなど、内容を知ってもらう工夫が必要
- ・学校で、ヤングケアラー支援に関する情報を提供する
- ・ヤングケアラーという言葉は聞き慣れないものだと感じた。まずは、言葉の認知を広げ、社会の理解を得る必要があると考える。 また、家族内の問題でもあることから、当事者からは中々声を上げづらいのではないかと推測する。自分も家族の問題となると、中々周囲には話しづらいと感じる。老老介護やいじめなどといった問題と共通する部分として、周囲に相談できる人がいる一方で、周りに迷惑をかけたくないから相談できない、といった人々が問題抱え込んでしまう点があると考え。 そのため、相談や支援といったサービスが用意できれば問題が解決できるわけではなく、そうしたサービスをきちんと利用してもらうにはどういった対応が必要か、議論していく必要があるだろう。
- ・SNS や動画サイトの広告を利用することで、多くの若者の目に止まりやすくなるのではないかと。

- ・学校でヤングケアラーが受けられる支援について学ぶこと
- ・まずはヤングケアラーの認知度を上げることが必要であると思う。きっとどこかで学んだりしていないとどういうものなのか分からないと思われる。
- ・まず若くして介護をしなくてはいけないというヤングケアラーがいるということを世間に広めるべき
- ・インターネットなどで発信していく必要がある
- ・ヤングケアラーに対する支援として、相談できる場所を知って理解してもらうことやヤングケアラーを知らない人に対しても理解する機会を与え知ってもらう
- ・ヤングケアラーの実態について、ネットや書籍などで知らせてゆく。 /等

<その他>

- ・もし相談できる人が居るなら、その人に積極的に相談すること。
- ・近所のひととの助け合い /等